

## 【専門部会の概要】

### ■ こども・子育て専門部会 準備会

日 付：H25年10月04日(金)

時 間：10:00~11:00

場 所：西成区役所 4-7 会議室

出席者：

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】迫野企画担当課長代理(こども青少年局)

【事務局】天野・山本

#### 1. 第1回専門部会開催に向けて・今年度の検討テーマ・調査について

##### ○次回専門部会の検討テーマ

- ・ こどもの家事業の移行
  - 担当局から情報提供
- ・ プレーパークについて
  - 地域メンバーからプレーパークの情報提供
- ・ 小中一貫校について

#### 2. 地域メンバーについて

- ・ 基本メンバー：上田、荘保、関口、西野、蕨川、西口、前島

## ■ 第1回こども・子育て専門部会

日付：H25年10月16日(水)

時間：10:00~12:00

場所：西成区役所 4-8 会議室

出席者：

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【地域メンバー】関口、上田、蕨川、前島、荘保

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】青柳放課後事業担当課長(こども青少年局)、

迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

松元青少年課担当係長(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

### 1. 地域メンバーによるテーマ検討

#### ○プレーパークの常設化

- ・未利用地の活用
- ・計画検討段階からのこどもの参画 (ワークショップをしながら一緒に創り上げていく)

#### ○こども版 地域包括支援のしくみ

- ・児童自立援助ホーム
- ・里親制度、訪問事業の拡充

#### ○仕事に繋がる就労支援教育(対策)

#### ○スクールソーシャルワーカーの各校常駐

### 2. こどもの家事業について

#### ○こどもの家事業が留守家庭対策に移行する

- ・代理受領制度 (バウチャー制度は予算的に困難)
- ・「留守家庭」の定義の垣根を広げた対策が必要
- ・区単位で、地域の実情に合わせた独自のしくみ作りができないか
- ・妊婦時からの関係性づくりが重要 (問題の早期発見、対応)

## ■ 第2回こども・子育て専門部会

日付：H25年10月28日(月)

時間：10:00~12:00

場所：西成区役所 4-7会議室

出席者：

【有識者】寺川(近畿大学)

【地域メンバー】関口、上田、前島、荘保、西口

【西成区】区長、小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】工藤こども青少年課長(こども青少年局)、

迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

### 1. プレーパークの常設化に向けて

#### ○「プレーパークをつくろう！プロジェクト」についての説明

- ・場所については地域資源活用専門部会でも検討

#### ○プレーパークの常設化のハードル

- ・安全性：警察や地域、PTA等との協議、連携が必要
- ・プレーパーク以外にも、自宅から歩いて行ける範囲でいつでも行ける「あそぼー」みたいな環境が必要。
  - …サテライト拠点とのネットワークや連携が必要
- ・市有地の活用 …ただし、市有地処分の基本方針は売却
- ・身近な公園の活用も必要 …ただし、規制が多く使い勝手が悪い
- ・目指す成果 …公的支援を受けるには具体的な成果とそのエビデンスが必要
- ・地域の公園、統廃合、防災など他のテーマとあわせた一体的なとりくみが必要
- ・プレーパーク常設化に向けた検討に予算が必要

#### ○プロジェクトチームの立ち上げについて

- ・12月5日にシンポジウムの開催
- ・1月19日に西成公園であそぼパークの開催

## ■ 第3回こども・子育て専門部会

日付：H25年12月09日(月)

時間：18:30~20:30

場所：西成区役所 4-7会議室

出席者：

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【地域メンバー】藤川、関口、上田、荘保、西口、西野

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)、

田中中学校教育担当主任指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

### 1. プレーパーク常設化について

○H27年度事業開始予定の場合の検討項目

- ・人数把握/意識調査
- ・積算根拠(事業の整備費)
- ・立地場所

### 2. 小中一貫校の教育内容について

○大阪市の「小中一貫した教育」の紹介

○小中一貫校についての意見交換

- ・地域の特性に応じた対応が必要
- ・小中カリキュラムの統合などは実施できる
- ・学年を超えた教育もできる。
- ・一貫校の教員数は定数以上に必要ではないか。(3校合算という考え方ではない)
- ・やたなか小中一貫校の特徴：言語力、特別支援学校との連携
- ・むくのき学園の特徴：キャリア教育(総合学習時間に実施)
- ・学習以前にケアソーシャルワーカーが必要ではないか。(地域と連携できる立場の人)
- ・特色を活かせる人員配置が必要
- ・学校選択制
  - 1年生から入学が基本/理由がないと転校できない/定員枠の問題がある
- ・児童生徒募集の時には特徴を打ち出す
  - 4校の特徴を考える必要がある。(現4校長で理念などを話し合っている)
  - 地域意見を聞くプロセスが必要
- ・部活動を小学校ではどのように考えているか
  - 小学校の部活動体験を積極的に。
- ・施設は教育内容によって変わるのではないか？
  - 現状の設備等：校舎1棟の新築・既存教室の改修(標準的なもの)

### 電子黒板、LAN 設備

- ・ 小中一貫によって、関係の固定化も考えられる
- ・ 地域の状況に応じた教員の公募ができないか
  - 校長の方針で募集できる(一校で一人)
- ・ 文化、スポーツ、本物に会える学校
  - 工夫はできる。(ワークショップ型でもよいのでは)
  - 学校をサポートできる団体も必要(応援隊)
- ・ 1人の子どもを多角的にサポートできる体制が必要
  - 母子手帳の活用
  - 教育と福祉の連携

## ■ 第4回こども・子育て専門部会

日 付：H26年1月20日(月)

時 間：18:30~20:30

場 所：西成区役所 4-7 会議室

出席者：

【ゲストスピーカー】山田事務局長(アスリートネットワーク)

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【地域メンバー】藤川、関口、上田、荘保、西口、前島

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保険福祉課担当係長

【大阪市】工藤こども青少年課長(こども青少年局)

迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)、

田中中学校教育担当主任指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

### 1. スポーツを通じて子どもの感覚を養う遊び場づくり

#### ○アスリートネットワーク活動の発表

- ・ 活動の概要 : 2010年3月29日に設立  
2012年4月に一般社団法人化、会員アスリートが約100名
- ・ 事業としては、行政・民間とのタイアップ事業を年間50本ほど実施
- ・ イベントで終わらせないための工夫  
→ モデル事業として、企業に協力し定期的な体力測定  
運動をするきっかけづくり・本物を見る機会づくりを行っている
- ・ 今後は、様々な活動とのコラボレーションなどが課題

#### ○プレーパークとの関係

- ・ プレーパークとは多角的な連携の視点、また、西成区との活動連携の視点が重要
- ・ プレーパークは、将来的に行政支援から活動を発展する必要がある、事業の継続性という視点から学ぶべき点がある

#### ○プレーパークの考え方

- ・ 小さな子ども同士の遊びにも本物の感動がある
- ・ 大切なのは日々の遊びの中で、体力などを培うこと
- ・ 事業主体を実行委員会形式が良いのではないか
- ・ 財源確保の課題がある・・・施設の設置目的から、受益者負担は難しい

### 2. シンポジウムに向けて

#### ○プレーパークの位置づけ

- ・ 子育て子育て支援プログラムの未然防止の中にプレーパークが位置づけられている
- ・ プレーパークの背景にある福祉的な要素、未然防止の大きな枠組みがある
- ・ 地域包括支援センターの導入は、行政的に、まだまだハードルが高い

#### ○発表内容

- ・ 前半：プレーパークを中心とした報告
- ・ 後半：地域包括支援などの背景の報告と考え方の提案